

伐採後に発芽した実生によって達成した
生田緑地の皆伐更新
2011～2017



特定非営利活動法人かわさき自然調査団
市民部会事務局担当
水田ビオトープ班班長 岩田臣生

目次

I. 伐採後に発芽した実生によって達成した生田緑地の皆伐更新	2
(1) 生田緑地の雑木林 ～遷移、老熟～	2
(2) 雑木林の植生管理	2
(3) 伐採更新という手法	2
(4) 都会に残された里山のポテンシャルは高い(多様な樹種の実生が発芽)	3
(5) 皆伐更新区域の面積	4
(6) 皆伐更新の管理活動	5
(7) 皆伐の社会的なインパクト	5
(8) 里山倶楽部A	6
(9) 皆伐更新を達成して	6
II. 生田緑地の皆伐更新を写真で振り返る	7
(1) 皆伐更新地区の1年目	7
(2) 皆伐更新地区の2年目	9
(3) 皆伐更新地区の3年目	11
(4) 皆伐更新地区の4年目	13
(5) 皆伐更新地区の5年目	15
(6) 皆伐更新地区の6年目	17
(7) 皆伐更新地区の7年目	19
III. 生田緑地の皆伐更新を始めるまでの経過と参加者	20
(1) 平成21年度(2009/10～2010/3) 皆伐更新の発案、調査、準備	20
(2) 平成22年度(2010/4～2011/2) 皆伐更新の準備	20
IV. 皆伐更新を目的とした里山倶楽部Aの活動と参加者	21
(1) 平成23年度(2011/4～11) 皆伐更新1年目の里山倶楽部A	21
(2) 平成24年度(2012/4～12) 皆伐更新2年目の里山倶楽部A	22
(3) 平成25年度(2013/4～12) 皆伐更新3年目の里山倶楽部A	23
(4) 平成26年度(2014/4～12) 皆伐更新4年目の里山倶楽部A	24
(5) 平成27年度(2015/4～12) 皆伐更新5年目の里山倶楽部A	25
(6) 平成28年度(2016/4～12) 皆伐更新6年目の里山倶楽部A	26
(7) 平成29年度(2017/4～) 皆伐更新7年目の里山倶楽部A	26
V. あとがき	27

I. 伐採後に発芽した実生によって達成した生田緑地の皆伐更新

(1) 生田緑地の雑木林 ～遷移、老熟～

生田緑地の雑木林はクヌギ・コナラ群集と呼ばれる落葉広葉樹林として環境省の特定植物群落「生田の雑木林」(50ha)に指定されています。しかし、コナラをはじめ多くの大径木は40～50歳程度と老熟しており、直ぐにでも高木層にとって代わろうとするシラカシ等の常緑樹が増え、亜高木層をヒサカキが優占している地区も多く見られます。

雑木林は放置すれば、遷移が進み、老熟します。2007年度末の生田緑地植生管理協議会において合議された生田緑地の植生管理計画では、「落葉広葉樹林として雑木林を保全する」ことでした。

生田緑地では毎夏、タマムシに出会えるのは老熟した雑木林の賜物と考えていますが、アカシジミやウラナミアカシジミに出会う機会が極端に少なくなっているのは、若いクヌギ、コナラが少なくなったためと考えられ、若いコナラ、クヌギの林も意識的につくる必要があると考える人も多くいました。

生田緑地の生物多様性を保全するためには、雑木林の樹種、樹齢など、様々な次元における多様性が重要です。そのため、パッチワーク状に、樹齢や樹林構成の異なる雑木林を人為的につくる植生管理を行うことも必要だと思います。

(2) 雑木林の植生管理

2006年に市民部会の事務局を引き受けて、雑木林の植生管理について考えなければならない立場となり、素人ながら、いきなり植生管理計画立案という課題に当たることになりました。そこで考えたことは、植生管理という作業範囲の単位は小さい方がいいだろうということ、また、その管理については、その区域について知識や関心のある人たちの意見を集めて、「合議による植生管理計画」を必要になった時に決定するという方法が適切だろうということでした。上記の「落葉広葉樹林として雑木林を保全する」という合議は、各植生管理区分毎に植生管理計画を立案する前提として、遷移に委ねるのか、落葉広葉樹林として保全するのかということを確認したものです。

「合議による植生管理計画」では、当該区域の目標植生について協議し、その目標に向けての植生管理を計画しますが、その具体的な植生管理は、林内を明るくするため、或いは景観づくりのための樹木の伐採や下草刈りについて、その頻度、例えば、毎年なのか、3年に一度なのか、5年に一度なのかといった管理強度を規定することになると考えていました。

しかし、生田緑地の雑木林の林床にはアズマネザサが密生しており、冬刈りでは、春になれば、発芽し、殆ど変わらぬ高さに繁茂します。

アズマネザサが繁茂できないくらいに林床が暗くなれば、アズマネザサ刈りは不要になりますが、その状態では、他の植物も生えなくなってしまいます。

夏刈りを行えば、アズマネザサの勢いをかなり弱められることが体験でき、良好な状態の雑木林の林床であれば、3年、5年といった間隔をおいた管理が可能になることが分かりました。

しかし、この植生管理は、遷移や老熟という課題に対処する植生管理ではありません。

高木層を伐採して、ギャップをつくり、そこに若い樹林を創り出すという植生管理も、生田緑地の生物多様性を保全するためには必要なことです。

老熟した樹林を伐採して若い樹林を育てるという手法を伐採更新といいます。これを都市公園の中の雑木林で実現していくためには、そのための樹林を育てる技術や、この活動を支える人材や、活動に関連する周辺からの支援の仕組みなど、更には、急激に変化する樹林を見ることになる来園者の理解が必要です。

(3) 伐採更新という手法

若い樹林をつくるための伐採更新のうち、その区域の樹木を全て伐採する更新を皆伐更新と言います。

伐採する範囲や、伐採する樹木を選んで、どのように管理をすれば目指す樹林をつくれるのかということは、変数が多くなるため、適切な解を見出すのは容易ではありません。今回は、飯室山南地区において、皆伐更新を実験し、どのような管理を行えば、若い雑木林をつくれるのかを試してみました。

皆伐後の対象地は景観としても殺伐として、地表は乾き、そこに棲息していた生物は殆ど消えて、そこに立っただけで、生態系に与えたインパクトが伝わってきました。しかし、そのインパクトが大きい故に、それまで土中で眠っていた埋土種子が発芽してきたり、一時的に出現する特殊な環境に適応する生物が観察されたりということも起こりました。

荒地のような状態の斜面に、ニオイタチツボスミレ(下左の写真)が花を咲かせたり、伐り株に、クロナガタマムシ(下右の写真)が群舞し、集団で交尾しているといった、他では見られないような光景に出会いました。



この環境故の生物との出会い、ダイナミックな景観の変化は、観察する者に強い印象を与えてくれ、樹林を育成する活動をしている市民にとっては、公園を散策しているだけでは得られない、引き込まれるような魅力を感じさせてくれるものでした。

市民にとっては、生田緑地の自然の保全に貢献できるボランティア活動であると同時に、都市公園におけるレクリエーションとしての活動にすることができると考えます。

今回、生田緑地における皆伐更新を体験するという機会を得られましたが、皆伐後の更新活動を継続し、7年目を迎えて、若いコナラ林に育成できる見通しが立ち、植生管理としては、更新という段階は終わったと考えて、胸を撫でおろしています。

(4) 都会に残された里山のポテンシャルは高い(多様な樹種の実生が発芽)

皆伐更新の対象とした雑木林の主たる構成種が萌芽更新可能な樹木であるならば、萌芽更新によって、比較的容易に更新を達成することができると思います。

クヌギ、コナラの萌芽枝の成長は速いので、この成長を阻害する、周囲の実生やアズマネザサを刈る管理を行えば良いのだと思います。

しかし、当該地の場合は萌芽した株は少なく、3年目には、クヌギ1株、コナラ1株が残ったものの、萌芽更新に頼った更新とすることはできませんでした。

皆伐更新を実験することを決めた時に、何人もの専門家に意見を求めましたが、「生田緑地のような直径30cm、樹齢50年のコナラは萌芽更新できない」ということを全員から言われていたので、萌芽更新はできなくて当たり前と考えていました。

ただ、「萌芽更新はできない」という意味を体験的に知りたいという気持ちはありましたので、その過程を見させてもらいました。

萌芽更新に頼ることはできませんでしたが、裸地状態の斜面にコナラが発芽してくれましたので、これを1本1本、丁寧に育てました。この自然発芽の実生が得られなかった時のために、苗床にクヌギ、コナラを播種して育てていましたが、結果的には使いませんでした。

自然に発芽した実生は、コナラに止まらず、ヤマザクラ、ゴンズイなど多様なもので、埋土種子というものの力強さを実感することができました。

実生の成長が萌芽枝の成長に追いつくまでに3年はかかり、小さな実生を成長の速いパイオニア種の実生やアズマネザサから守る根気のいる活動が必要になりましたが、最終的な樹林の構成種が人為的に植えたものではなく、自然に生えてきたもので実現できたというのは、市街地の中の都市公園に残された雑木林とはいえ、そのポテンシャルの高さに驚かされました。

この「自然に生えてきたもので実現」したということは、この活動に参加した市民が誇るべきことであると考えています。

今回の皆伐更新について振り返って考えたことは、「何を持ち込むかではなく、コナラ林とするために何を取り除くか」ということだったと思います。

今も生き残っている萌芽枝と実生の成長を表したグラフが次図です。3年目には実生の樹高が追い抜いて、実生によって皆伐更新を進めることになりました。

萌芽・実生の成長

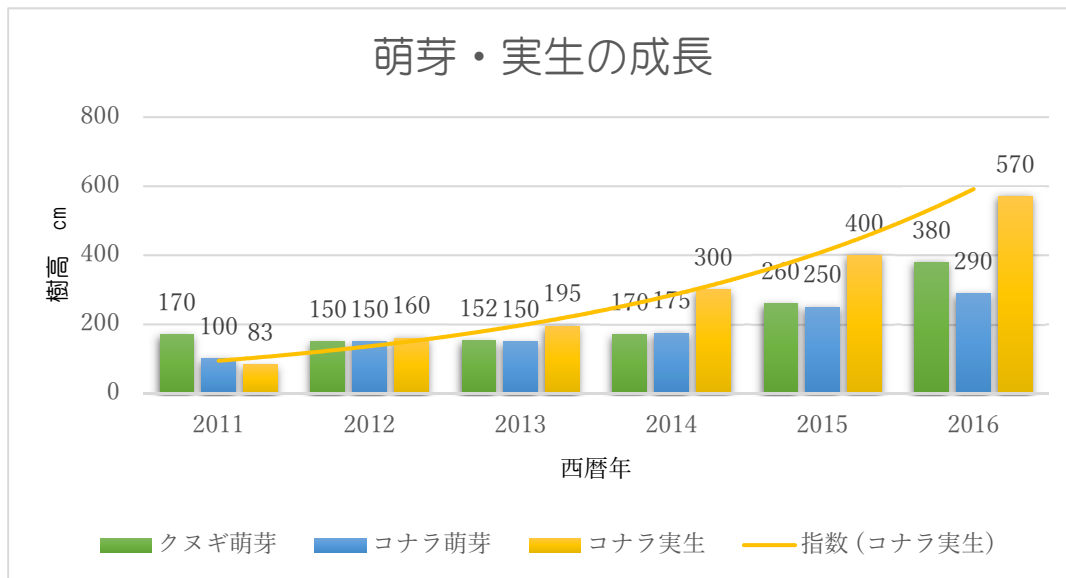


写真) 実生の生育状態



皆伐更新 1 年目の秋



皆伐更新 2 年目の秋



皆伐更新 3 年目の秋



皆伐更新 4 年目の秋



皆伐更新 5 年目の秋



皆伐更新 6 年目の秋

(5) 皆伐更新区域の面積

今回の皆伐更新は、概ね、20m×20m、400 平方メートルの規模で実施しました。

皆伐更新の範囲については、随分悩んだところで、皆伐前後のアズマネザサ刈りや樹木調査は広めに行いま

した。

皆伐更新の可能性については、伐採された区域の相対照度が問題で、成長に必要な照度が確保される必要があるということでしたが、様々な事例を調べ、地形を考え、このぐらいの規模があれば実生を育てられるだろうという感覚的な判断をしたのですが、斜面が南東向きの尾根上にあつたので、周囲が樹林であっても、伐採地の半分程には、直接光が当たると考えていました。

また、続けて隣接地で皆伐更新を行うのであれば、更に南東側の住宅地に接した場所から始めた方が良いのではないかと考えましたが、生田緑地としては斜面勾配が緩い範囲として、これだけの面積を確保するという観点から、この場所を選定しました。

事前の毎木調査では、伐採範囲の高木層の樹種はコナラ 23 本、クヌギ 1 本、イヌシデ 1 本でした。

これらを皆伐した結果、コナラについては、1 年目には 13 株が萌芽したものの、11 月には 7 株になり、2 年目の 11 月には 4 株、3 年目の 11 月には 1 株になっていました。クヌギは萌芽して、今も生き残っていますが、イヌシデは萌芽しませんでした。

クヌギ、コナラ共に 1 株は萌芽株が生き残っていますが、その樹高は 4 年目には実生の成長に追い抜かれてしまい、大きく成長する様子がありません。しかし、伐り株の内部の材は腐って欠けてきているのに、萌芽枝の部分の樹皮はしっかりしていて、萌芽更新の何たるかを教えられることとなりました。

萌芽更新は実生から育てるよりも早く大きく育てることができるために、薪炭林として管理されていた雑木林での管理手法として定着していたものですから、その観点からは、これは萌芽更新したとは言えない結果でしたが、萌芽更新についての知見を体験的に得ることができました。

(6) 皆伐更新の管理活動

皆伐更新は、若い樹林を育てることが第一目的ですから、目標の樹林構成種(コナラ、ヤマザクラなど)がある程度成長して、細かい保護管理を必要としない状態になるまで、これらの実生を第一優先で管理することにしました。

皆伐によって消えてしまうとされたエビネやシュンランは、辛うじて残った株もありましたが、草本植物についての生育環境を考えた管理は行いませんでした。

皆伐更新 1~3 年目は、パイオニアと呼ばれる植物が繁茂してきました。即ち、アカメガシワ、ヌルデなど、一斉に発芽して、成長の速い植物です。

コナラの実生には目印をつけて、間違えて刈ったり、踏み潰したりしないようにしていましたが、これらのパイオニア植物は刈るのではなく、抜き取るようにしました。

これは、皆伐後 2~3 年だけの活動ですが、刈らずに引き抜くことが大切であることが分かりました。

刈ってしまうと、翌年、萌芽して繁茂してしまい、しかも、今度は根が張っていて抜けなくなります。1回で処理するためには、引き抜くことが肝要です。

皆伐する前の林床には、高さ 1.5m 程のアズマネザサが密生していましたから、皆伐後、真っ先に葉を広げたのはアズマネザサであり、林床が暗くなるまでは、元気に繁茂し続けるでしょう。

ですから、もう一つの実生を育てるための基本的かつ重要な管理活動は、萌芽株や実生の周囲だけ、アズマネザサなどの植物を刈り取る活動だと考えました。

但し、刈った材は、刈った場所に広げて散らすようにしました。これは、地面の乾燥を抑えるためです。

実生を確認しながら管理するためには、夏期の活動が適していますが、地面の乾燥をできるだけ防ぐ必要があると考えました。生えだしたばかりのアズマネザサは小さく、柔らかいので、散らしておくのが良いと思います。

これは、実生頼りの皆伐更新の最も基本的な活動だと考えます。特に 3~4 年目は徹底して行いました。

育てようとする実生の周囲だけを刈る活動を 3 年も繰り返していると、コナラやヤマザクラから離れている所は、ヤブムラサキ、ヒメコウゾ、イヌザンショウ、ススキ、アズマネザサなどのヤブができてきます。

そこで、皆伐後 4 年目以降は、コナラやヤマザクラ実生とのバランスを見て、年末 1 回は、このヤブを少しずつ小さくする除伐を行いました。

小さな実生を育てる活動は根気のいるもので、今回設定した面積は、作業量という観点からみて適切な規模であったと思います。

(7) 皆伐の社会的なインパクト

生田緑地は、川崎市という大都市の市街地の中にある都市公園です。

多くの都市住民にとって魅力的な公園・緑地のイメージは、林立する大きな樹木と地面を覆う草地であり、大きく育った樹木を伐採することは、自然破壊と受け止められてしまいます。

1998 年末に萌芽更新地区で行われた伐採に対して沢山のクレームが寄せられたということは、このことを物語っています。

勿論、全域を一度に伐採することが生物多様性の保全にはならないということは、誰もが理解していると思います。

伐採更新の単位は、萌芽更新や、実生の生育を可能にする規模であれば、狭い方が管理は容易です。しかし、狭い範囲であっても、良好な樹林を伐採することについては、慎重に検討しなければならないことだと思います。

同時に、公園を利用する来園者の理解を得る努力も必要だと思います。そして、今後は、若い樹林を育てる活動に参加してもらえるように、適切な啓発活動を行うことも考えなければならないことだと思います。

(8) 里山倶楽部A

萌芽更新地区には、伝統的な里山管理である萌芽更新を説明する大きな看板が設置されましたが、その実際の管理を行う仕組みはつくられず、9年経っても萌芽更新地区と呼べる樹林にはなりません。

今回の皆伐更新では、2006年につくられた市民部会という仕組みによって、伐採後の更新管理をしてもらえるという期待がありました。市民部会は、生田緑地の自然を保全する活動に市民がレクリエーションとして参加できる場をつくることも考えていましたので、皆伐更新というテーマに対して挑戦してみることにし、新たに<愛称>里山倶楽部Aという枠組みをつくりました。

雑木林を育てる活動は長期に及ぶため、里山倶楽部Aは、子育て中のお母さんと子どもたちを中心に考えました。

活動を通して、生田緑地の自然に親しみ、自然を理解できる人に成長してほしいと思い、4~12月の第一土曜日(8月は休み)の年間8回を活動日としました。

都市の中の里山を体験することで、都会では難しくなった、子どもが自然に触れて成長することを可能にする機会にもなると考えています。このことが、最近の参加者の増加につながっていると思います。

大都市の市街地の中の里山の最も重要な資源は「人」です。

里山倶楽部Aが参加者として求めている市民が、里山倶楽部Aを生活の中に必要な活動として位置付けてくれる状態になってきたことは、里山倶楽部Aという仕組みの可能性を高めてくれる嬉しい結果です。

(9) 皆伐更新を達成して

私たちが2011年から実施してきた皆伐更新は7年目を迎えて、若い雑木林と呼べる状態になりつつあり、今後は皆伐更新ではなく、生物多様性を考えた雑木林としての保全管理に移行したいと考えています。

この皆伐更新の活動は、ニュースに取り上げられることもない小さなことから、生田緑地に関わっている人にも知られることなく、恐らくは、誰の頭の中からも、直ぐに忘れられてしまうでしょう。

しかし、私は、この実験は成功し、大きな成果を残したと考えています。

大都市の市街地の中の都市公園の雑木林でありながら、多様な種の埋土種子があり、発芽して育てて樹林をつくれることが分かりました。

実生を育てるといって根気のいる活動を楽しんでくれる子育て中のお母さんと子どもたちで、里山倶楽部Aという仕組みをつくることができました。

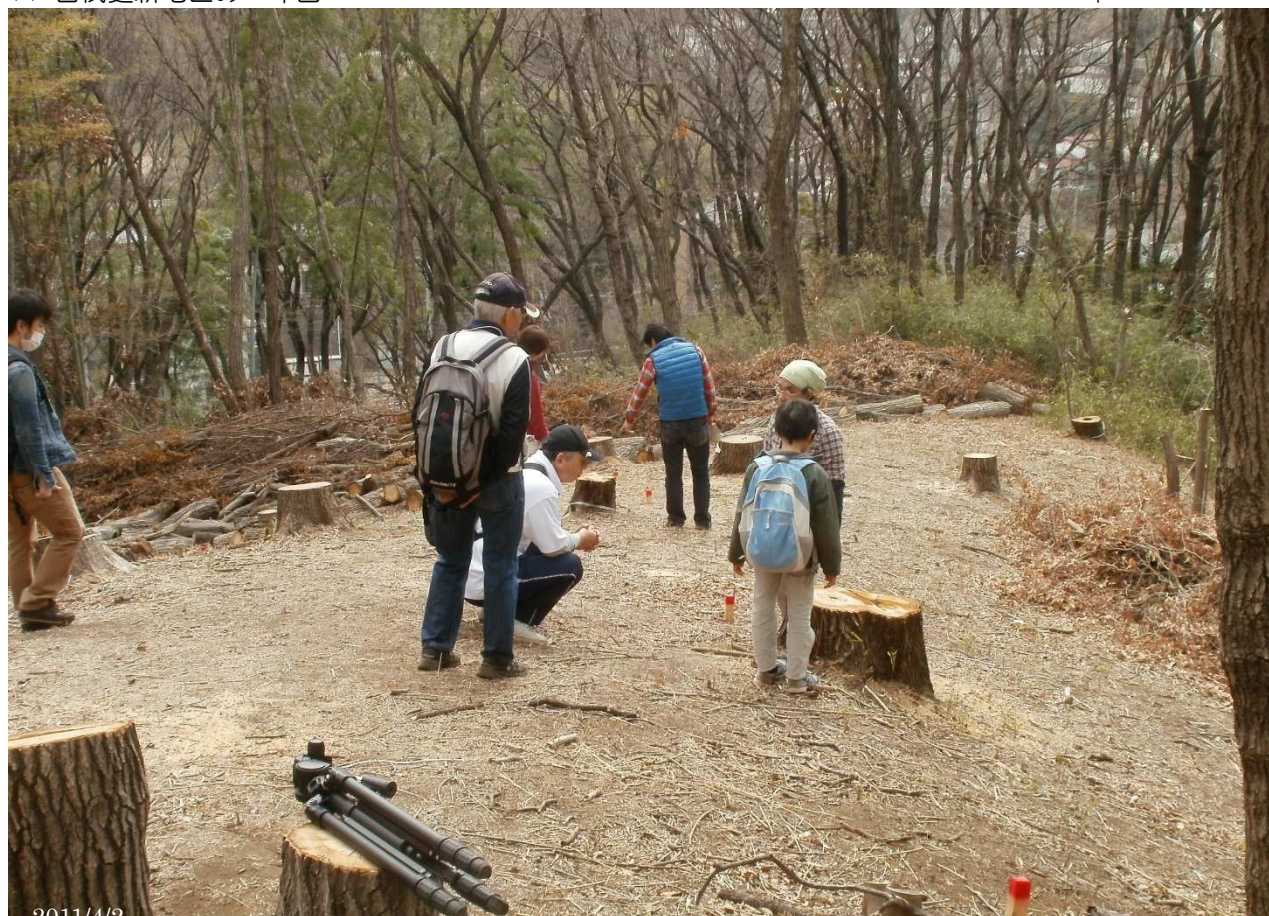
当該地区における皆伐更新は、合議された若い雑木林をつくり、計画を達成できたと思います。この活動のために里山倶楽部Aに参加してくれた皆さんに対する感謝の気持ちを込めて、一人一人の名前を、長期に渡る活動の一つ一つを記録して残したいと思います。

本報告は、学問的には価値の無いものかも知れませんが、生田緑地のような都市域、或いは都市近郊域にある緑地において、伐採更新を考えている市民活動団体の皆さんの参考になれば幸いです。

II. 生田緑地の皆伐更新を写真で振り返る

(1) 皆伐更新地区の1年目

2011年



2011/4/2



2011/6/4



2011/6/4



2011/7/2



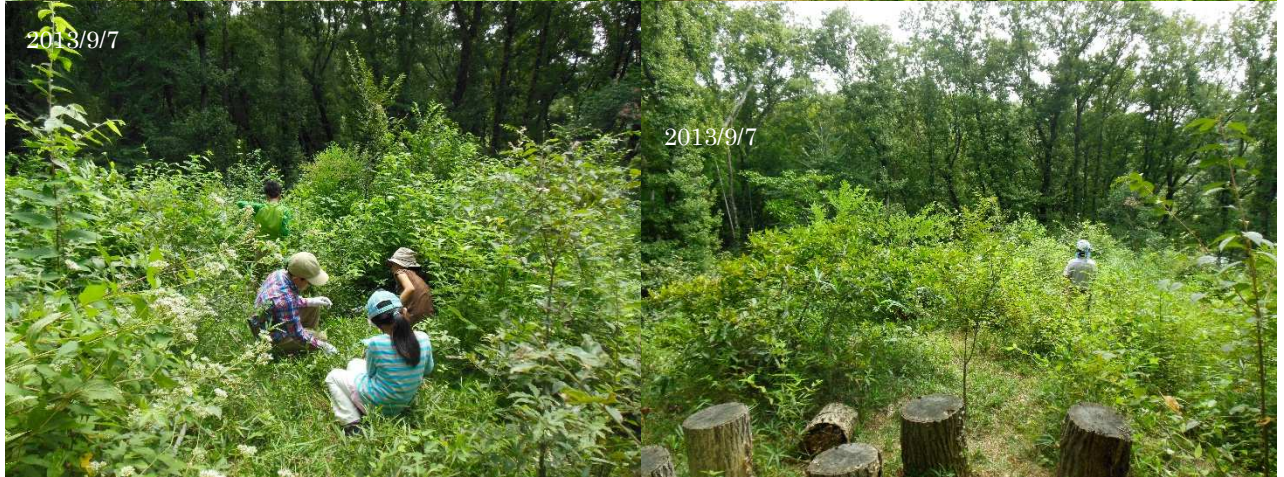
2011/7/2

























2017/8/5 生田緑地の皆伐更新を考える市民部会



III. 生田緑地の皆伐更新を始めるまでの経過と参加者

(1) 平成 21 年度(2009/10~2010/3) 皆伐更新の発案、調査、準備

2009/10/24(土) 第 8 回市民部会「遷移の進んだ地域の植生管理を考える」

活動 標記テーマの市民部会(現地協議)の過程で、飯室山南地区での皆伐更新を実験しようとした。

萌芽更新地区は伐採後の管理を行う仕組みが無かったが、今度は市民部会ができたから管理できる。

参加(麻生多摩美の森の会)勝田佳代子、(北部公園事務所)堀江 洋、(かわさき自然調査団)佐藤利奈

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

5 名

2009/11/30(月) 市民部会特別回

活動 皆伐更新についての現地協議

樹齢から判断して萌芽更新は不可能。実生の育成、或いは苗木を育てて植樹することも考えることを合議。

参加 倉本 宣(生田緑地植生管理協議会会長、明治大学教授)、(北部公園事務所)堀江 洋、井上久子

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

5 名

2010 年 1 月 業者によるアズマネザサ刈り

2010/1/31(日) 第 14 回市民部会

活動 皆伐区域を決めるための樹木調査

この区域内は、高木層にクヌギ 2、イヌシデ 1、コナラ 23、亜高木層にシラカシ 4、低木層にマルバアオダモ 9、エゴノキ、ヌルデ、ムラサキシキブ、ヤマツツジ、ウグイスカグラで構成されていた。

参加 佐久間淳子、白澤光代、(青山学院大学学生)寶田真衣、(明治大学学生)高祖博之、宮寺宏一、吉田朗子

(北部公園事務所)山口泰民、(かわさき自然調査団)小泉恵佑、佐藤登喜子、前田 宏、吉留憲子

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

13 名

2010 年 2 月 業者によるアズマネザサ刈り(多摩区役所道路公園センター監理)

2010/3/8(月) 第 15 回市民部会

活動 地形を見てアズマネザサ刈りの範囲を広げ、皆伐区域(20m×20m)を現地に描いた。

参加 白澤光代、(明治大学学生)吉田朗子、(かわさき自然調査団)小泉恵佑、城本法子、出口忠良、前田 宏

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

8 名

(2) 平成 22 年度(2010/4~2011/2) 皆伐更新の準備

2010/4/6(火) 第 1 回市民部会

活動 皆伐更新区域および皆伐計画について現地協議を行い、次ことを合議した。

1) 当該地区については、設定した調査方形区の外側も含めて植生調査を行うこと

2) 当該地区の南側の民地境界に接した場所についても可能性を検討すること

3) 萌芽更新事例の調査をすること

4) ナラ枯れについての調査をすること

参加 倉本 宣(生田緑地植生管理協議会会長)、(北部公園事務所)井上久子、山口泰民

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

5 名

2010/5/1(土) 第 2 回市民部会「樹木マップづくり」

活動 一班は各調査方形区について樹木等を調べ図化、他班は西側に調査区域を広げる活動を行った。

参加 尾崎 隆、尾崎義子、白澤光代、野仲将生、薬袋奈美子、薬袋ふさみ

(多摩区役所道路公園センター)山口泰民、(かわさき自然調査団)飯室 健、佐藤利奈、前田 宏、吉留憲子

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

13 名

2010/5/2(日) 「樹木マップづくり(続き)」

活動 5/1 に広げた区域について、樹木の名札付け、図化等の活動を行った。

参加 (明治大学学生)高祖博之、(かわさき自然調査団)雛倉正人、(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

4 名

2010/5/3(月)

活動 樹木マップづくり(続き)

参加(明治大学学生)高祖博之、(かわさき自然調査団)雛倉正人、(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

4 名

2010/5/5(水)

活動 樹木マップづくり(続き)

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

2 名

2010/7/16(金) 第 4 回市民部会

活動 植生調査の勉強会

講師 藤間照子(かわさき自然調査団)

参加(生田緑地の雑木林を育てる会)白澤光代、(多摩区役所道路公園センター)今井 勝、山口泰民

(かわさき自然調査団)飯室 健、城本法子、増田 将、(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

8 名

2010/10/26(火) 市民部会 活動 都立小宮公園の萌芽更新見学 講師 倉本 宣(生田緑地植生管理協議会会長) 参加(かわさき自然調査団)岩田臣生、岩田芳美、小泉恵佑	4名
2010/11/6(土) 市民部会 活動 早野聖地公園の萌芽更新見学 案内 小泉 清(早野聖地公園里山ボランティア副会長) 参加(多摩区道路公園センター)佐藤 力、山口泰民、(かわさき自然調査団)飯室 健、小泉恵佑 (市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美	7名
2010/11/10(水) 第10回市民部会 活動 皆伐のための現地の準備 イ) 皆伐更新の区域を決め、四隅に木杭を立てること ロ) 特定の植物の保護をする区域を決め、場所を明示すること ハ) 貼り付けてあった番号札を根元に落とすこと ニ) 区域に重複するが伐採する樹木に赤いスズランテープで目印をつけること ホ) 伐採した木材を置く場所を決めること ヘ) 伐採した木材の処理についての特記事項についての話し合いをすること 参加(生田緑地の雑木林を育てる会)白澤光代、(多摩区道路公園センター)今井 勝、山口泰民、齋藤真吾 (市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美	6名
2010/11/24(水) 市民部会 活動 樹木活力度調査 参加(多摩区道路公園センター)山口泰民、齋藤真吾、(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美	4名
2010/11/27(土) 倉本・明大教授主宰の雑木林勉強会「都立桜ヶ丘公園見学」に参加 (かわさき自然調査団)岩田臣生、岩田芳美	
2010/11/28(日) 第11回市民部会 活動 ノコギリによるコナラ数本の伐採 参加(東京大学博士課程学生)土屋一彬、(麻生多摩美の森の会)勝田佳代子 (雑木林を育てる会)阿出川稲子、井口実、久保田浩二、白澤光代、土屋邦夫、寺尾隆典、藪哲二、外木敏孔 (多摩区道路公園センター)佐藤 力、山口泰民、齋藤真吾、(かわさき自然調査団)佐藤利奈 (市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美	16名
2010年12月 業者による樹木伐採(多摩区役所道路公園センター監理)	
2010/12/26(日) 水田ビオトープ班の活動 活動 残っていたシラカシ、ヒサカキ等の常緑樹の伐採 参加(かわさき自然調査団)岩田臣生、岩田芳美、佐藤利奈、雛倉正人	4名
2011/2/21(月) 水田ビオトープ班の活動 活動 調査方形区の杭打ち、皆伐更新地区へのアクセス路(丸太階段)づくり 参加(かわさき自然調査団)岩田臣生、岩田芳美、小泉恵佑	3名

IV. 皆伐更新を目的とした里山倶楽部 A の活動と参加者

(1) 平成 23 年度(2011/4~11) 皆伐更新 1 年目の里山倶楽部 A

2011/4/2(土) 里山倶楽部 A「自然観察」 参加 工藤忠由(小 5) (多摩区道路公園センター)山口泰民、齋藤真吾 (かわさき自然調査団)金子文隆、佐藤利奈、長岡泰造 (市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美	8名
2011/5/7(土) 里山倶楽部 A「雨の中の自然観察」 参加 工藤真貴子、工藤忠由(小 5)、工藤千穂(幼児)、末武宏太(小 5) (かわさき自然調査団)金子文隆、佐藤登喜子 (市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美	8名
2011/5/9(月) 市民部会事務局「コナラ実生保護用目印づくり」 参加 岩田臣生、岩田芳美	2名

2011/6/4(土) 里山倶楽部A

活動 植物調査(草本 10 種、木本 26 種が芽生え始めた)、切り株の番号札つけ、周囲 50cm のアズマネザサ刈り

生物 クロナガタムシ、アブラムシ類

参加 工藤真貴子、工藤思由(小 5)、工藤千穂(幼児)

(多摩区役所道路公園センター) 山口泰民

(かわさき自然調査団) 金子文隆、佐藤登喜子

(市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 8 名

2011/7/2(土) 里山倶楽部A

活動 萌芽調査(最大 150cm)、萌芽・実生周りのアズマネザサ刈り、アカメガシワ抜き取り

生物 ヒグラシ脱皮殻

参加 工藤真貴子、工藤思由(小 5)、工藤千穂(幼児)

(かわさき自然調査団) 金子文隆

(市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 6 名

2011/9/3(土) 里山倶楽部A

活動 植生調査、萌芽・実生の保護(アカメガシワ実生の抜き取り)、雨のため活動終了

参加 工藤真貴子、工藤千穂(幼児)

(かわさき自然調査団) 藤間熙子

(市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 5 名

2011/9/8(木) 市民部会事務局「アカメガシワ、ヤマグワなどの抜き取り」

生物 ササキリ、ツチイナゴ幼虫、アゲハチョウ、ナガサキアゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハ、アオスジアゲハ、

モンキチョウ、アキアカネ

参加 岩田臣生、岩田芳美 2 名

2011/10/1(土) 里山倶楽部A「萌芽・実生調査、番号札位置を地図に記載」

萌芽株(コナラ 10、クヌギ 1) 170~180cm、コナラ実生 max.83cm

9/3以降に確認された植物種数は 108 種

参加 末武宏太(小 5)

(かわさき自然調査団) 金子文隆、佐藤登喜子、藤間熙子、八尾百香

(市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 7 名

2011/11/5(土) 里山倶楽部A

活動 実生 1 本毎につけていた番号をグループ毎の番号に変更、実生周りのアズマネザサ刈り、キリ実生除伐

生物 ナミアゲハ幼虫、コムシアシゴミムシダマシ?

参加 工藤真貴子、工藤思由(小 5)、工藤千穂(幼児)

(かわさき自然調査団) 金子文隆、藤間熙子

(市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 7 名

2011/11/10(金) (市民部会事務局)「補足調査」

コナラ実生(78 本、6~140cm、平均 34.2cm)

参加 岩田臣生 1 名

(2) 平成 24 年度(2012/4~12) 皆伐更新 2 年目の里山倶楽部A

2012/4/7(土) 里山倶楽部A「植生調査と萌芽・実生の保護」

生物 ニオイタチツボスミレ

参加(2 年目) 末武宏太(小 6)

(かわさき自然調査団) 金子文隆、佐藤登喜子

(市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 5 名

2012/5/5(土) 里山倶楽部A「植生調査、萌芽・実生の保護」

生物 マルカメムシ

参加(2 年目) 工藤真貴子、工藤思由(小 6)、工藤千穂(小 1)

(かわさき自然調査団) 金子文隆、佐藤登喜子

(市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 7 名

2012/6/2(土) 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」

活動 切り株・実生周りのアズマネザサ、ヤマグワ、アカメガシワ、ヤブムラサキ、ヒヨドリジョウゴなどを刈った。

生物 ウラギンシジミ、ムラサキシジミ、シロテンハナムグリ、アブラムシ、テントウムシ

参加(1 年目) 豊島由美子

(かわさき自然調査団)金子文隆、
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 4名

2012/7/7(土) 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」(霧雨)
生物 オオニジユウヤホシ Tentウ、ササキリ幼虫、ヒメクロオトシブミ、マルウンカ
参加(2年目)工藤思由(小6)、末武宏太(小6)
(かわさき自然調査団)金子文隆、佐藤登喜子
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 6名

2012/9/1(土) 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」(昼から雨のため、午前中のみ)
生物 ナガゴマフカミキリ
参加(2年目)工藤真貴子、工藤思由(小6)、工藤千穂(小1)、末武宏太(小6)
(かわさき自然調査団)金子文隆、佐藤登喜子
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 8名

2012/10/6 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」
生物 植物 100種
オオカマキリ、クビキリギス、ツチイナゴ、ショウリヨウバツタモドキ、ナミアゲハ幼虫、ジョロウグモ
参加(2年目)工藤思由(小6)
(1年目)豊島芳璃人(中1)
(かわさき自然調査団)金子文隆、佐藤登喜子
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 6名

2012/11/3 里山倶楽部A「萌芽・実生の成長調査と保護」
萌芽株(コナラ4、クヌギ1)、樹高 100~180cm; 実生 20cm以上が61本、樹高は20~160cm
生物 サワガニ、ヤクシソウ花
参加(2年目)工藤思由(小6)、末武宏太(小6)
(かわさき自然調査団)佐藤登喜子
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 5名

2012/12/1 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」(昼から雨)
生物 ヒヨドリジョウゴ実
参加(2年目)工藤真貴子、工藤思由(小6)、工藤千穂(小1)
(1年目)豊島由美子、豊島芳璃人(中1)
(かわさき自然調査団)金子文隆、佐藤登喜子
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 9名

(3) 平成25年度(2013/4~12) 皆伐更新3年目の里山倶楽部A

2013/4/6 里山倶楽部A「植生調査、萌芽・実生の保護」(曇後雨)
生物 ニオイタチツボスミレ花、カントウタンボコ花、クマバチ、ヤブキリ幼虫、ツチイナゴ
参加(3年目)工藤真貴子、工藤思由(中1)、工藤千穂(小2)
(1年目)山下淳也(中3)、額谷悠夏
(かわさき自然調査団)佐藤登喜子
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 8名

2013/5/4 里山倶楽部A「植生調査、萌芽・実生の保護」
萌芽株(コナラ2、クヌギ1)、樹高 160cm;コナラ実生 100cm以上が16本、当年発芽多数
生物 ヒメクロオトシブミ、ヒメウラナミジャンメ、アゲハチョウ、クロアゲハ、キチョウ、マルカメムシ、
イチモンジカメノコハムシ
参加(2年目)豊島由美子
(1年目)山下淳也(中3)
(かわさき自然調査団)佐藤登喜子
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 5名

2013/6/1 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護、丸太階段の補修」
生物 モリチャバネゴキブリ
参加(3年目)工藤真貴子、工藤思由(中1)、工藤千穂(小2)
(1年目)額谷悠夏
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 6名

2013/7/6 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」
 生物 ペレット、ヤマトタムシ、ニイジマトラカミキリ、ヤマトフキバツタ？
 参加(3年目)工藤真貴子、工藤思由(中1)、工藤千穂(小2)
 (1年目)山下淳也(中3)
 (かわさき自然調査団)佐藤登喜子、(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 7名

2013/9/7 里山倶楽部A「植生調査、萌芽・実生の保護」
 生物 ハギ花、ヒヨドリバナ花、ヒヨドリジョウゴ花、ネコハギ花、ミヤマナルコゴロ実、ヨウシュヤマゴボウ実
 ナミアゲハ、キタキチョウ、アオスジアゲハ、コムスジ
 サツマノミダマシ
 参加(3年目)工藤真貴子、工藤思由(中1)、工藤千穂(小2)
 (1年目)山下淳也(中3)
 (かわさき自然調査団)佐藤登喜子
 (市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 7名

2013/11/2 里山倶楽部A「成長調査、萌芽・実生の保護」
 萌芽株(コナラ1、クヌギ1)、コナラ実生70本 max.195cm
 生物 イヌザンショウ実、トギリマメ実、ヤクシソウ花、ツチグリ
 参加(3年目)工藤真貴子、工藤思由(中1)、工藤千穂(小2)
 (1年目)額谷悠夏、山下淳也(中3)
 (市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 7名

2013/12/7 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」
 参加(3年目)工藤思由(中1)
 (1年目)額谷悠夏
 (かわさき自然調査団)佐藤登喜子
 (市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 5名

(4) 平成26年度(2014/4~12) 皆伐更新4年目の里山倶楽部A

2014/4/5 里山倶楽部A「自然観察、萌芽・実生の保護」
 参加(4年目)工藤真貴子、工藤思由(中2)、工藤千穂(小3)
 (2年目)山下淳也(高1)、額谷悠夏
 (1年目)西尾麻子、西尾幸大(小1)、政野美咲(小3)、山下佳保里、山下真奈実(小4)、
 山下まい、山下はなの(小4)、山下ねのは(小1)
 (かわさき自然調査団)佐藤登喜子、政野祐一
 (市民部会事務局)岩田臣生 16名

2014/5/3 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」
 参加(2年目)山下淳也(高1)、額谷悠夏
 (1年目)大崎真希、大崎虎太郎(小1)、西尾光広、西尾麻子、西尾幸大(小1)、政野美咲(小3)
 山下佳保里、山下真奈実(小4)
 (かわさき自然調査団)佐藤登喜子、政野祐一
 (市民部会事務局)岩田臣生 13名

2014/7/12 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」
 参加(4年目)工藤真貴子、工藤思由(中2)、工藤千穂(小3)
 (2年目)額谷悠夏、山下淳也(高1)
 (1年目)政野美咲(小3)
 (かわさき自然調査団)政野祐一
 (市民部会事務局)岩田臣生 8名

2014/9/6 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」
 参加(4年目)工藤真貴子、工藤思由(中2)、工藤千穂(小3)
 (2年目)額谷悠夏、山下淳也(高1)
 (1年目)政野美咲(小3)、山下佳保里、山下真奈美(小4)
 (かわさき自然調査団)政野祐一
 (市民部会事務局)岩田臣生 10名

2014/10/4 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」
 参加(4年目)工藤真貴子、工藤思由(中2)、工藤千穂(小3)
 (2年目)額谷悠夏、山下淳也(高1)

(1年目)政野美咲(小3)、山下佳保里、山下真奈美(小4)、山下まい
(かわさき自然調査団)政野祐一
(市民部会事務局)岩田臣生

11名

2014/11/1 里山倶楽部A「萌芽・実生の調査」

萌芽株(コナラ1、クヌギ1); コナラ実生 31本(120~300cm); ヤマザクラ実生 9本(165~400cm)
ゴズイ4本(170~250cm)、その他3本(300~400cm)

参加(4年目)工藤思由(中2)

(2年目)額谷悠夏、山下淳也(高1)

(市民部会事務局)岩田臣生

4名

2014/12/6 里山倶楽部A「萌芽・実生の調査」

参加(4年目)工藤真貴子、工藤思由(中2)、工藤千穂(小3)

(2年目)山下淳也(高1)、額谷悠夏

(1年目)西尾麻子、西尾幸大(小1)、政野美咲(小3)、山下佳保里、山下真奈美(小4)、
山下まい、山下はなの(小4)、山下ねのは(小1)

(かわさき自然調査団)政野祐一

(市民部会事務局)岩田臣生

15名

(5) 平成27年度(2015/4~12) 皆伐更新5年目の里山倶楽部A

2015/4/4 里山倶楽部A「自然観察、萌芽・実生の保護」

参加(5年目)工藤真貴子、工藤千穂(小4)

(3年目)山下淳也(高2)、額谷悠夏

(2年目)山下佳保里、山下真奈美(小5)、山下まい、山下はなの(小5)、山下ねのは(小2)

(1年目)小泉咲子、小泉 翠(幼児)

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

13名

2015/5/2 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」

参加(3年目)山下淳也(高2)、額谷悠夏

(2年目)山下佳保里、山下真奈美(小5)、山下まい、山下はなの(小5)、山下ねのは(小2)

西尾麻子、西尾幸大(小2)、

(1年目)小泉咲子、小泉 翠(幼児)、片岡日出美、片岡優斗(幼児)、片岡航佑(幼児)

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

16名

2015/6/6 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」

参加(5年目)工藤真貴子、工藤思由(中3)

(3年目)山下淳也(高2)

(2年目)山下佳保里、山下真奈美(小5)、山下まい、山下はなの(小5)、山下ねのは(小2)

(1年目)片岡日出美、片岡優斗(幼児)、片岡航佑(幼児)、小泉咲子、小泉 翠(幼児)

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

15名

2015/9/5 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」

参加(5年目)工藤真貴子、工藤思由(中3)

(3年目)山下淳也(高2)、額谷悠夏

(2年目)山下佳保里、山下真奈美(小5)、山下まい、山下はなの(小5)、山下ねのは(小2)

(1年目)片岡日出美、片岡優斗(幼児)、片岡航佑(乳児)、小泉咲子、小泉 翠(幼児)、

鈴木麻美、鈴木美舟(小4)、鈴木真之介(小1)

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

19名

2015/10/3 里山倶楽部A「萌芽・実生の保護」

参加(3年目)山下淳也(高2)、額谷悠夏

(2年目)山下佳保里、山下真奈美(小5)、山下まい、山下はなの(小5)、山下ねのは(小2)、

西尾麻子、西尾幸大(小2)

(1年目)片岡日出美、片岡優斗(幼児)、片岡航佑(乳児)、鈴木麻美、鈴木美舟(小4)、鈴木真之介(小1)

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

17名

2015/11/7 里山倶楽部A「萌芽・実生の成長調査と保護」

萌芽株(コナラ1、クヌギ1); コナラ実生 31本、170~400cm、ヤマザクラ実生 10本、220~550cm

参加(4年目)工藤思由(中3)

(3年目)山下淳也(高2)、額谷悠夏

(2年目)山下佳保里、山下真奈美(小5)

(1年目)片岡日出美、片岡優斗(幼児)、片岡航佑(幼児)、小泉咲子、小泉 翠(幼児)
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 12名

(6) 平成 28 年度 (2016/4~12) 皆伐更新 6 年目の里山倶楽部A

2016/4/2(土) 里山倶楽部 A「自然観察、萌芽・実生の保護」

参加(6年目)工藤真貴子、工藤思由(高1)、工藤千穂(小5)
(4年目)山下佳保里、山下淳也(高3)、山下真奈実(小6)、額谷悠夏
(3年目)山下まい、山下はなの(小6)、山下ねのは(小3)
(2年目)鈴木麻美、鈴木美舟(小5)、鈴木眞之介(小2)
(1年目)池上幸一、池上陽子、池上豪一郎(幼児)、猿谷久美子、猿谷幸喜(18歳)、猿谷明衣(小4)、
藤村望美、藤村 溪(幼児)、藤村 花(幼児)
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 24名

2016/5/7(土) 里山倶楽部 A「萌芽・実生の保護」

参加(6年目)工藤真貴子、工藤思由(高1)、工藤千穂(小5)
(4年目)山下淳也(高3)、山下真奈実(小6)、額谷悠夏
(3年目)山下まい、山下はなの(小6)、山下ねのは(小3)、西尾麻子、西尾幸大(小3)
(2年目)鈴木麻美、鈴木美舟(小5)、鈴木眞之介(小2)
(1年目)池上幸一、池上陽子、池上豪一郎(幼児)
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 19名

2016/6/4(土) 里山倶楽部 A「コナラ林育成」

参加(4年目)山下佳保里、山下淳也(高3)、山下真奈実(小6)、額谷悠夏
(3年目)山下まい、山下はなの(小6)、山下ねのは(小3)
(1年目)池上幸一、池上豪一郎(幼児)、藤原望美、藤原 溪(幼児)、藤原 花(幼児)、
山崎孝子、山崎蓮佳(小1)
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 16名

2016/7/2(土) 里山倶楽部 A「コナラ林育成」

参加(6年目)工藤真貴子、工藤思由(高1)
(4年目)山下淳也(高3)、額谷悠夏
(3年目)山下まい、山下はなの(小6)
(2年目)鈴木麻美、鈴木美舟(小5)、眞之介(小1)
(1年目)藤原望美、溪(幼児)、花(幼児)
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 14名

2016/11/5(土) 里山倶楽部 A「コナラ林育成」

萌芽株(コナラ1、クヌギ1)、コナラ実生 29本、200~570cm、ヤマザクラ実生 9本、260~570cm
参加(6年目)工藤思由(高1)
(4年目)山下淳也(高3)、額谷悠夏
(3年目)山下香保里
(1年目)藤村望美、藤村 溪(幼児)、藤村 花(幼児)、山崎孝子、山崎蓮佳(小2)
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 11名

2016/12/3(土) 里山倶楽部 A「コナラ林育成」

参加(4年目)山下淳也(高3)、額谷悠夏
(3年目)山下香保里、山下真奈実(小5)、山下まい、山下はなの(小6)、山下ねのは(小3)
西尾麻子、西尾幸大(小3)
(2年目)鈴木麻美、鈴木美舟(小5)、鈴木眞之介(小2)
(1年目)山崎孝子、山崎蓮佳(小2)
(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美 16名

(7) 平成 29 年度 (2017/4~) 皆伐更新 7 年目の里山倶楽部A

2017/6/3(土) 里山倶楽部 A「コナラ林育成」

参加(5年目)山下佳保里、山下真奈美(中1)、額谷悠夏
(2年目)池上幸一、池上豪一郎(小1)、猿谷久美子、猿谷明衣(小6)、
藤村望美、藤村 溪(幼児)、藤村 花(幼児)、山崎孝子、山崎蓮佳(小3)
(1年目)杉本莉彩(高1)

(市民部会事務局)岩田臣生、岩田芳美

15名

2017/8/5(土) 生田緑地の皆伐更新を考える市民部会

皆伐更新地区に案内し、皆伐更新が概ね達成できたことを判断していただきました。

参加(市民部会始動期の北部公園事務所)山口泰民、鈴木修司

(里山倶楽部A)工藤真貴子、工藤思由、工藤千穂、額谷悠夏

(自然会議会長)磯谷達宏・国土館大学教授

(森林総合研究所多摩森林学園)島田和則

(川崎市)清田陽助、矢口菊子、山本栄行

(生田緑地の雑木林を育てる会)白澤光代

(かわさき自然調査団)藤間熙子、佐藤登喜子、吉留憲子、政野祐一

(里山倶楽部事務局)岩田臣生、岩田芳美

19名

2017/12/2(土) 里山倶楽部A「コナラ若齢林の植生管理」

参加 1年目 新井みどり、新井康介、杉本貴子、杉本大知(小4)

2年目 池上幸一、池上陽子、池上豪一郎(小1)、藤村望美、藤村 湊(小1)、藤村 花(幼児)
山崎英男、山崎蓮佳(小3)

3年目 鈴木麻美、鈴木美舟(小6)、鈴木真一郎(小3)

4年目 山下まい、山下ねのは(小4)

5年目 額谷悠夏、山下佳保里、山下真奈美(中1)

7年目 工藤真貴子

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美

23名

V. あとがき

長年管理されていなかった雑木林の樹木は老熟していて、萌芽更新する体力を失っているようです。

それでも、若い樹林を、パッチワーク状に一部に組み込むことは、遷移を留め、生物多様性を保全するために必要なことだと考えます。

その時に、その土地の埋土種子を発芽させ、外来種等は取り除き、在来の多様な樹種を育てて、若い雑木林をつくることは、時間と労力のかかる大変な活動ですが、一つの安全な方法です。

この活動を里山ボランティアという枠にとらわれることなく、子育て、子どもの健全育成という次元の活動と融合して実施すると可能性が広がると考えています。

今回、私たちは、里山倶楽部Aという仕組みによって、これを乗り越えて、皆伐更新を実現しました。

本報告は、その過程を記録したものです。

都会の市街地の中の都市公園に残された里山的環境は、強度な公園整備を免れている場合は、埋もれている自然のポテンシャルは意外に高いことが分かりました。単に、大都市内だからということだけで諦めるべきではなく、蓄積された自然を掘り起こす努力も必要であり、ある程度は再生することが可能であると実感しました。